



# 営農NEWS



## 来年の稲作りに向けて、刈取り後の耕起は 早めに行ってください

### イネ縞葉枯病の防除や多年生雑草（クログワイ、オモダカ など）の除草効果が期待できます

本年の水稲栽培では、育苗期から田植後も大きな気象災害もなく、ほぼ順調に経過しました。このため、農林水産省関東農政局水戸地域センターが8月27日公表の、8月15日現在における本県の作柄概況は、北部、鹿行、南部、西部ともに「やや良」で、県全体としても「やや良」と見込まれています。

一方、病害虫の発生では、県西地域を中心に、県内広域に徐々に拡大しつつある縞葉枯病が今年も問題になりました。さらに、夏季が高温のときには常に問題となる、斑点米カメムシ類の発生予察注意報が発表されました。また、雑草では全県下で、多年生雑草クログワイなどの発生増加が課題となっています。

これらの対策として、収穫後の刈り株に生じるヒコバエ（再生稲）が縞葉枯病の秋の保毒源となり、また、媒介虫ヒメトビウンカの生息場所となることから、出来るだけ早く耕起することで、ウイルスを保毒したヒメトビウンカの越冬虫数を低下させる効果が期待できます。

さらに、秋季に耕起することにより、多年生雑草クログワイやオモダカなどの塊茎を妨げ、また、土壌表面に露出させることにより、その後の低温や乾燥で塊茎を枯死させて減少させる効果も期待できます。

このため、収穫後は早めに（多年生雑草クログワイ等を非選択性除草剤で処理する場合は、その効果を発揮した後に）水田を耕起することで病害虫や雑草を抑制し、刈り株やワラを土中で分解促進することによる土づくりに努めてください。

#### 参考：水田の難防除雑草クログワイの除草対策

多年生雑草のクログワイは、長期にわたって発生することや塊茎の寿命が長いことから、難防除雑草の一つとなっています。クログワイは水田で、4月下旬～5月中旬に発生し、地下茎の先に分株を作りながら増殖していき、9月中旬～10月下旬になると、地下に塊茎を形成して翌年以降の繁殖源となります。

#### ＜クログワイの除草対策＞

一般的には、田植え後に初中期一発剤を処理し、必要に応じて後期剤処理を加えるなど体系処理を行います。しかし、本田で発生して問題になる場合には、さらに、

- 1 発生が比較的少ない圃場では、稲刈り取後の早期に水田を耕起することにより、クログワイ塊茎の形成量や越冬面を減らす除草効果が期待できます。
- 2 多発生圃場では、刈取り後すぐに耕起を行わず、稲わらを持ち出すか薬液がかかりやすくなるように均一に散らして、ラウンドアップマックスロードなど非選択性の除草剤を10月中旬までに散布することにより、高い除草効果が期待できます。（平成26年9月24日現在）

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040